

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 被爆80年特別企画展

爆心3キロ圏の人々

— 被爆体験記が伝える あの時 —

入場
無料



寄贈: 畑村 タケ代
所蔵: 広島平和記念資料館
爆心地から約1,900mの広島駅で被爆

令和7年(2025年)8月1日(金)～8月31日(日)

会期中無休

開館時間 8:30～19:00(5日、6日は20:00)

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 地下1階 研修室

〒730-0811 広島市中区中島町1-6 Tel.082-543-6271/ Fax.082-543-6273



祈念館ホームページ▲

1945年8月6日午前8時15分に投下された原子爆弾は島病院(原爆ドームから160m)の上空約600mで炸裂し、広島市の町は一瞬にして破壊されました。広島原爆の場合、平坦な都市の中央で爆発したため、爆心地からほぼ同心円状に被害の程度を区分することができます。被爆者による体験記や実物資料を交え、爆心地からの距離別に原爆の熱線、爆風、放射線の威力とその被害を伝えます。



児玉光雄さん 爆心地から約900mで被爆

「ピカッ!」あの幻の黄金の太陽が、巨大な火柱となって、南側の窓辺に落ちるのを左目でみた。やられた。伏せろ。中腰だった私は、とっさに机の下にもぐり込むことが出来た……と思った。どのくらいの沈黙の時間が過ぎたのだろうか。(中略)埃のおさまった倒壊校舎の下をのぞくと脳天を倒れた柱で割られたのか黒髪が真赤な血で染まり、白桃色の脳みそがとび出し、もうぐったりした友をみた。



▲体験記全文

森田時江さん 爆心地から約1900mで被爆

意識がはっきりするにつれて、全身に焼けつくような痛みを感じました。後頭部、首、腕や足に切るか、刺すかしたような激痛が走り、髪の毛は焼けて縮れ、頭はヤケドし、さらに右腕もヤケドで黒く水ぶくれになっていました。そして、着ていたグレーのシャツやモンペは焼けてボロボロになり、焼け残った部分は体にくっついていました。



▲体験記全文



出口虎喜さん 爆心地から約2900mで被爆

両手で眼と耳を押さえて自習机の下に伏せている私の体の上を、地底をゆるがすような底力のある轟音が襲いかかり、嵐のような爆風が通り過ぎた。(中略)破壊された窓ガラスの破片は、鋭利な刃物と化して、室内のすべての柱に突き刺さっていた。(中略)自分と同区隊の某候補生は、何かの破片で眉間を割られて鮮血がほとばしり、軍衣を血に染めながらも軍装を整えようとしていた姿が目には焼きついて離れない。



▲体験記全文



交通のご案内

JR広島駅(南口)から(約20分)

※すべて下車後は徒歩約5分

■バス／広島バス吉島方面行きで「本通り」下車

■市内電車／紙屋町経由広島港(宇品)行きで「本通」下車
宮島口、江波行きで「原爆ドーム前」下車



国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

Hiroshima National Peace Memorial Hall for the Atomic Bomb Victims